

鴨川を美しくする会



BYQネットワーク

協賛グループの紹介



BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただくと、素敵な景品を差し上げるといったもの。これまで約1200の方がご応募くださいました。また協賛グループは、53の市民団体と19の水関連施設で構成されています。（平成18年2月末現在）



この誌面では、BYQネットワークで活躍されている市民団体にスポットを当て、その活動内容をレポートします。今回は、『鴨川を美しくする会』の杉江貞昭事務局長にお話を伺いました。



杉江貞昭事務局長

春は桜が咲き、夏は鮎が泳ぎ、秋は紅葉に染まり、冬はユリカモメが飛来する、鴨川。古都千二百年の歴史とともに流れてきたこの川は、今も市民の憩いの場であり、京都を代表する名所の一つでもあります。ところが、市内を縦断する河川だけに、とても汚れていた時期がありました。

「水は工場排水などで汚染され、川畔にゴミが散乱し、木陰にはタンスまで捨てられている始末。山紫水明の地であるはずが、人も魚も寄りつきません。美しい鴨川を取り戻そうと地域住民が立ち上がり、『鴨川を美しくする会』が結成されました。1964年、東京オリンピックの年です」と、杉江さん。会の4代目の事務局長であり、京都河川美化団体連合会の幹事を務めておられます。

「まずはゴミ拾いからです。クリーンハイクと称する清掃活動を3カ月毎に行いましたが、捨てる人と拾う人とのイタチごっこ。これは意識の問題ではと、69年の夏、美化啓発活動『鴨川納涼』を開催し、河川敷に啓発コーナーや夜店を設けました。また、川面を眺めながら料理を楽しむ、歴史ある『鴨川納涼床』に、多くの市民が鴨川に親しみました。現在は150団体を超す協賛・協力を得て、約15万人が訪れる、京の夏の風物詩です。73年の春からは、川沿いの紅いだれ桜を觀賞する『鴨川茶店』も開催しています。今では他府県

からの観光コースにもなっているんですよ」

もちろん清掃活動も継続・発展中で、94年秋には、さまざまな団体や企業の参加を募り、第1回『合同クリーンハイク』を実施。多い年には1,700名以上の規模になるそう。鴨川は、徐々にその美しさを取り戻しました。

「毎年秋の活動として、もう一つ、小学校の総合学習の一環で、子どもたちと『鴨川の水质や水生昆虫の実態調査』を行っています。次代を担う子どもたちに、自然の大切さを理解してもらいたいのです。他府県の中学生が、私の元へ研修に来ることもあります。後日、“地域の川の美化に取り組み始めました”という便りをもたらるのは、本当に嬉しいものです」

杉江さんらの活動は、小学校の社会科の教科書や副読本、百科事典などにも取り上げられています。さらには、外務省の招請で、中国や韓国のテレビ局も取材に訪れました。結成42年。現在、委員26名、個人会員48名、団体会員約280団体。まさしく、鴨川を美しくしてきた会です。

「私たちは、“きっかけ”をつくってきたにすぎません。少しずつ力が集まって、やっと一つの形になるのです。この美しい川が、自然と共生できる社会が、未来に継承されることを切に望みます」と話す杉江事務局長。それは、私たちみんなの願いでもあるはずですよ。



2006年で第32回を迎える「鴨川茶店」



京都の伝統産業である友禅流しを模した「第3回世界水フォーラム」の巨大な歓迎サイン